



「 エレミヤの神殿説教～迷信でない信仰を 」

エレミヤ書講解-19 エレミヤ書7:1～15 他 小野寺 望 牧師

- 11 わたしの名がつけられているこの家は、あなたがたの目に強盗の巣と見えたのか。見よ、このわたしもそう見ていた——【主】のことば——
- 12 だが、シロにあったわたしの住まい、先にわたしの名を住ませた場所へ行って、わたしの民イスラエルの悪のゆえに、そこでわたしがしたことを見てみよ。
- 13 今、あなたがたは、これらのことをみな行い——【主】のことば——  
わたしがあなたがたに、絶えずしきりに語りかけたのに、あなたがたは聞こうともせず、わたしが呼んだのに、答えもしなかったので、
- 14 わたしの名がつけられているこの家、あなたがたの先祖が頼みとするこの家、また、わたしが、あなたがたと、あなたがたの先祖に与えたこの場所に対して、わたしはシロにしたのと同様のことを行う。
- 15 わたしは、かつて、あなたがたのすべての兄弟、エフライムのすべての子孫を追い払ったように、あなたがたをわたしの前から追い払う。』

【 申命記 】

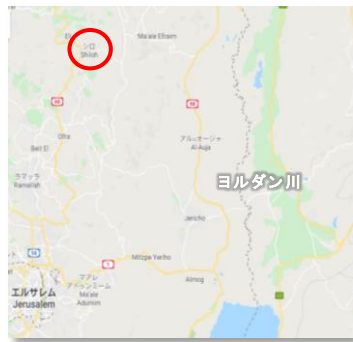
- 7:12 もしあなたがたがこれらの定めを聞き、これを守り行なうなら、あなたの神、【主】は、あなたの父祖たちに誓われた恵みの契約をあなたのために守り、
- 7:13 あなたを愛し、あなたを祝福し、あなたを増やす。主があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われた地で、あなたの胎の実も、穀物、新しいぶどう酒、油などの大地の実りもまたあなたの群れの中の子牛、群れの中の子羊も祝福される。

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

かつての中心地シロ

イスラエル人は、カナンに進行した際、契約の箱に先頭を行かせた。カナン征服後は、契約の箱はシロの幕屋に安置された。のちにペリシテ人の襲撃される。

約束の地では、律法の原則により、指導者の墮落が、重大な結果につながる。  
(1サム4:1-11)、前1050年頃。



【 エレミヤ書 7章 】

- 1 【主】からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「【主】の宮の門に立ち、そこでこのことばを叫べ。  
『【主】を礼拝するために、これらの門に入るすべてのユダの人々よ、【主】のことばを聞け。
- 3 イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。あなたがたの生き方と行いを改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたをこの場所に住ませる。
- 4 あなたがたは、「これは【主】の宮、【主】の宮、【主】の宮だ」という偽りのことばに信頼してはならない。
- 5 もし、本当に、あなたがたが生き方と行いを改め、あなたがたの間で公正を行い、
- 6 寄留者、孤児、やもめを虐げず、咎なき者の血をこの場所で流さず、ほかの神々に従って自分の身にわざわいを招くようなことをしなければ、
- 7 わたしはこの場所、わたしがあなたがたの先祖に与えたこの地に、とこしえからとこしえまで、あなたがたを住ませる。
- 8 見よ、あなたがたは、役に立たない偽りのことばを頼りにしている。
- 9 あなたがたは盗み、人を殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに犠牲を供え、あなたがたの知らなかった他の神々に従っている。
- 10 そして、わたしの名がつけられているこの宮の、わたしの前にやって来て立ち、「私たちは救われている」と言うが、それは、これらすべての忌み嫌うべきことをするためか。

(4ページへ続く)

## ◆ はじめに

### | 信仰すべき本質と恵み

#### 1. 多くの人々は、目に見えるものを魅力的に感じる。

- a 信仰の本質とは：ご利益や行為が迷信として信仰の根拠になっていないか。
- b キリスト教会にとっても例外ではない。誤った組織化、形式化など

#### 2. まことの神に従うこと以外に、その呪縛から逃れる方法はない。

\*例：既存の権力に反発し、ある人はヒッピー、または仏教ブームへ。

## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 教会の本質を考える：『日本の教会に対する批判』（ヘンドリック・クレマー著）より

\*このメッセージは、信仰の本質と教会堂の在り方について学ぶものである。

=====

## I 神殿に関する迷信（1～9節）

### 1. エレミヤへの神の命令

#### (1) 神殿でメッセージをせよ

##### ① エレミヤは、神から命令を受けた。（神殿でのメッセージは8：3まで）

\*「礼拝するために…門に入るユダのすべての人々」：

恐らく、男性の巡礼が伴う三大祭りのいずれかで語られた。

##### ② ユダの人々の迷信を糾弾せよ。

\*迷信の内容：主の宮が建っているエルサレムは永遠に滅びない。

神殿は神聖であり、何より主のみ住まいであられるから。

\*「これは主の宮だ。」と叫ぶ程に、彼らの表面的な信仰が露わとなる。

偶像を礼拝しつつ行われる表面的な神殿崇拜こそ、彼らの迷信である。

##### ③ 迷信的な態度は、偶像礼拝に対する戒めを忘れ、道徳面でも重大な問題

（弱者を虐げ、不正を行う、殺人など）を生む。

#### (2) 出来事の成就：エホヤキム王が即位した前609年（26章）

### 2. 迷信の起源と正しい解釈

#### (1) 迷信の起源 ～迷信はなぜ起こった？

##### ① 時代：エレミヤより100年前、預言者イザヤの時代

##### ② 出来事：アッシリヤのセナケリブがエルサレムを攻めて来た。

##### ③ 対応：当時の王ヒゼキヤは、悔い改めた。※平行箇所は2列18章、2歴32章

##### ④ 結果：神はさばきを思いとどまり、エルサレムは救われた。

\*一日に18万5000人の兵を倒した（イザ36～37章）、

※因みに歴史的記録を記したイザヤ36～39章は、後半40章以降との境目に当たる。

##### ⑤ 迷信：栄光がとどまる神殿とエルサレムは特別であり、滅びることはない。



#### (2) 歴史から学ぶ正しい解釈（迷信がもつ問題点）

##### ① エルサレムや神殿は、神の目に特別だが、それが守られた理由ではない。

\*神殿だけがみ住まいではない。使徒7：48、17：24、1列8：27、イザ66：1-2

##### ② 真の理由は、ヒゼキヤ王の悔い改めたから。慢心してはいけない。

\*ヒゼキヤ王にメッセージを語ったのは預言者ミカ（ミカ3：12）

## II 真の安全はどこに（10～15節）

### 1. 民の慢心への警告

#### (1) 「私たちは救われている」と告白。

##### ① 真の悔い改めが伴わない告白であり、主は受け入れられない。

\*巡礼の目的が礼拝ではなく（本質がない）、単にお祭り騒ぎのような・・・

\*イエスは「強盗の巢」と表現された。マコ11：17

##### ② かつての神殿の中心地シロも、今は滅びている。

\*前1050年、シロはペリシテ軍によって破壊された。1サム4：1-11

\*迷信に基づく慢心がいかに当てにならず、恐ろしいことか

##### ③ 神は、同じことをエルサレムに対しても行使できる。

#### (2) アブラハムの子孫に対する土地の所有権と、安住は別の問題である。

## III 歴史は繰り返す～契約の神に目を留めよ

#### (1) 申7：12-15

##### ① イスラエルの民は、【主】との契約関係に置かれている。

##### ② もし【主】に従順に歩むなら、約束の地で大いなる祝福を味わう。

##### ③ その祝福の本質は、「契約に基づく愛・恵み」（原語はヘセッド）

##### ④ すべての国々の民の中で、もっとも祝福された民となる。

#### (2) 教えを蝕む偶像

##### ① この聖句の後、カナンのに住むすべての人を滅ぼす命令が下される。

\*それはカナン人自身の罪が満ちたから。

\*イスラエルと神の健全な関係を脅かす危機は偶像礼拝である。

##### ② エレミヤの時代：①神殿礼拝を迷信的に理解、②偶像礼拝と神殿礼拝の並行。

## ◆ まとめ：教会の本質を考える：『日本の教会に対する批判』（ヘンドリック・クレマー著）

#### ① 一人ひとりは今、キリストの律法に従う者である。

#### ② 「教会」として群れも、個人的にも、「神の宮」である。

#### ③ それは、内に聖霊が働いているからである。

#### ④ 建物それ自体が神の宮ではない。※集まる場所はもちろん必要である。

#### ⑤ 会堂の豪華さよりも、むしろ個人個人の信仰の質の成長をまず求めよう。